

「王国」の担い手 地域を耕す

帯広農業 高校 100年

帯広農業高校(二木浩志校長、生徒584人)が今年、開校から100周年の節目を迎えた。1世紀の間に送り出した卒業生は全日制、定時制を合わせて約1万8000人。「礼儀 協同 勤労」を校訓に掲げ、十勝はもとより道内農林業の担い手を数多く輩出してきた。大正、昭和、平成、令和の四つの時代にわたり、農業王国、十勝を築く一翼を担ってきた同校の歩みを振り返る。

「十勝に農学校を」熱意結実

同校は1920(大正9)年4月、「十勝に農学校を」と願う十勝住民の熱意により、帯広町他12町村組合立十勝農学校として開校。「勝農」の略称で呼ばれた。

帯広尋常小学校で入学式が行われ、同年12月、市内西4南23に新校舎が完成する。初代校長の隆山忠夫氏が設計し、工事は全て帯広刑務所の受刑者が行った。33(昭和8)年に校舎が全焼し、現在地に移転。110名の広大な敷地で生徒たちが寄宿舎に入り実習を行う塾式教育が始まり、現在の教育の礎が築かれた。

2003年の全日制の学科改編で農業科学、食品科学、酪農科学、農業土木工学、森林科学の5学科となり、農業経営者だけでなく、農業関連技術者も数多く輩出。農業クラブ活動では全国大会で最優秀賞に入るなど活躍している。

近年はスポーツ分野の活躍も目覚ましい。野球部は過去2度の甲子園大会に出場。陸上部や柔道部、スケート部は全国大会で上位入賞を果たしている。さらに人気漫画で映画化もされた「銀の匙(さし)」やNHK連続テレビ小説「なつぞら」の舞台のモデルとなるなど、全国から注目を集めている。



100周年を迎えた帯広農業高校。農業、酪農、食品、農業土木、森林の分野で地域を担う人材を育成している(金野和彦撮影)

刻んだ夢！
100年の思いをのせて
永遠の帯農魂